

稲作情報 7 号

梅雨の中休み気温高め、生育は順調で 3～4 日進んでいる。！

1 気象経過

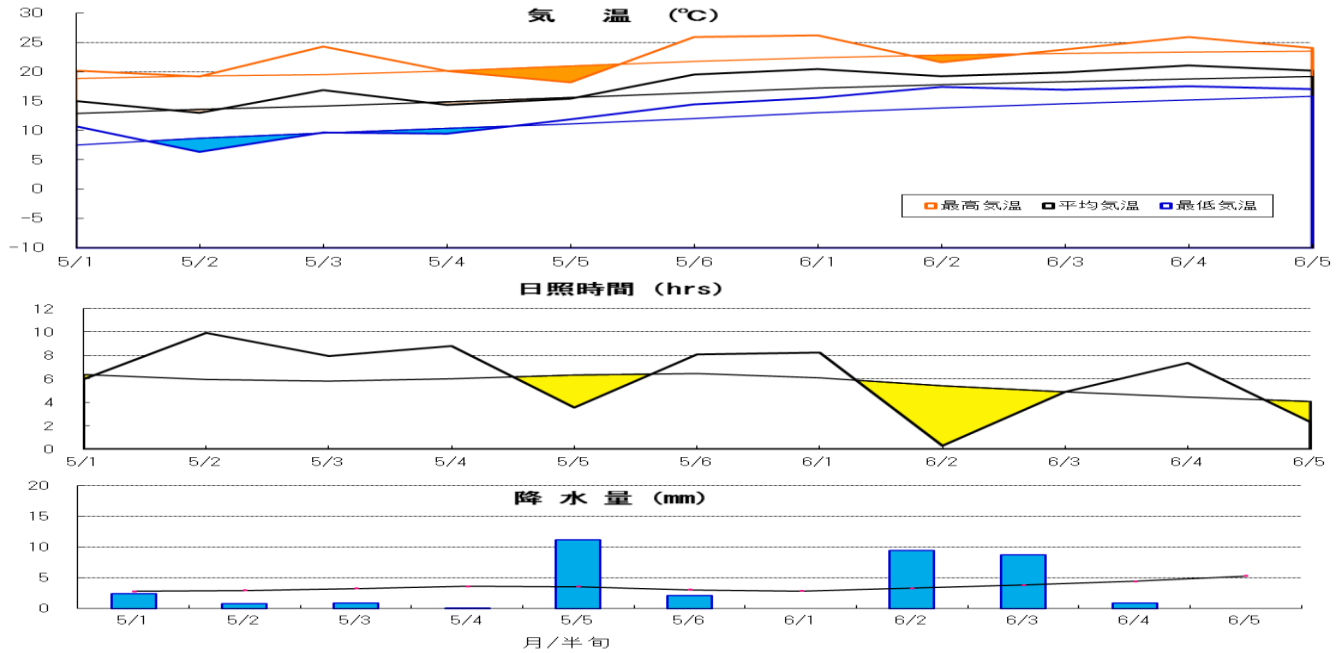


図-1 平成 26 年産水稲田植後の気象経過 (アメダス古川 半月別)

- (1) 気温は、田植最盛期 (5 月 11 日) 後、平年並みから高めに経過した。
- (2) 日照時間は、入梅 (6 月 5 日) 後、寡照だったが、その後梅雨の中休みでほぼ平年並みである。
- (3) 降水量は、5 月が平年比で 76%と少なく、6 月はまとまった雨があり、6 月 22 日現在、平年よりやや多くなっている。

2 今後の気象予報

- (1) 週間天気予報 (6 月 24 日～6 月 30 日)
 - ・ 向こう一週間、期間のはじめは高気圧に覆われて概ね晴れ、その後は、前線や湿った気流の影響で曇りの所が多い。最高気温、最低気温とも平年より高い日が多い見込み。
- (2) 1 か月の天候予報 (6 月 21 日～7 月 20 日)
 - ・ 平年と同様に曇りや雨の日が多く、1 週目の気温は平年並または高い確率ともに 40%，2 週目が平年並または低い確率ともに 40%である。

3 生育状況

- ・ 水稻の生育は良好であり、平年に比べて 3～4 日程度進んでいる。
- ・ 平年に比較して茎数は多く、草丈は長くなった。県全体平均で草丈が 41.9 cm (平年比 118%)，1 m²当たりの茎数は 412 本 (平年比 112%) となっている。
- ・ 主稈葉数は 8.6 枚で平年より +0.5 枚進んでいる。(10 日間で 2 枚弱進んだ)
- ・ 葉色 (GM 値) は、前年よりやや淡く、ほぼ平年並みとなっている。

表－1 県内の水稲生育状況（宮城県 6月20日調査）

a. 県全体

県全体	草 丈			茎 数			葉 数			葉緑素計(GM)値		
	本 年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (本/m ²)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)	本 年	前年差	平年差
	41.9	104	118	412	104	112	8.6	▲ 0.1	0.5	42.6	▲ 1.6	0.4

b. 品種別

品種別	草 丈			茎 数			葉 数			葉緑素計(GM)値		
	本 年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (本/m ²)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)	本 年	前年差	平年差
ひとめぼれ	42.0	104	119	413	103	112	8.5	▲ 0.3	0.3	42.8	▲ 1.8	0.2
ササニシキ	39.0	104	115	417	105	120	8.6	0.3	0.6	41.7	▲ 1.5	0.9
まなむすめ	47.3	103	116	393	105	94	8.8	▲ 0.1	0.8	43.1	▲ 0.7	▲ 0.5

※平年比：前5ヶ年（平成21年～25年）の平均値との比較

※葉緑素計(GM)値：葉に含まれている葉緑素(クロロフィル)量の測定値で、栄養状態を把握するもの。



図－2 鉄コーティング湛水直播栽培



慣行移植栽培

4 今後の管理

(1) 水管理

- ・好天に恵まれ、必要な茎数(400～500本/m²)を確保している水田では、中干しや溝切りの時期を早め、過剰分げつを抑制し、秋まさりの生育となるよう茎数管理を検討しましょう。
- ・生わらや未熟堆肥を施用した水田では、水温の上昇とともにガスの発生や土壌還元による生育抑制を防ぐことが必要です。

(2) 「葉いもち」に注意

- ・発生開始期は、平年並の7月第1半旬頃と思われ、発生量は「やや多い」と予想されている。
- ・県防除所の巡回調査では、残苗における葉いもちの発生地点率はやや高かった。
- ・本田における葉いもちの発生は確認されていない(6月16日現在)が、アメダス資料による感染好適日の推定では、既に広域的に準感染好適条件が出現している。
- ・感染には平均気温20～25℃、曇りや雨の日が多いことが好適であり、1か月予報の第2週目気温は並かやや高く、降水量は並かやや多い予報となっている。

表1 残苗における葉いもちの発病状況

	残苗放置率(%)	発生地点率(%)
本年	14.6	4.3
前年	9.3	1.5
平年	9.1	2.2

※平年：過去10年の平均 ※調査時期6月11,12,13,16日

※調査方法：巡回調査地点の周辺10畝程度の残苗放置状況と残苗の葉いもち発生状況を調査



図－3 補植用葉いもちと残苗